

ボランティアガイド によるツアー実施

昨秋に発足した「上ノ国町ボランティアガイド協会岩田靖会長」が、4月26日にガイドツアーを実施しました。

この日はガイド協会設立後、初めての本格的なツアーとなり、函館から本町の史跡巡りに訪れた47名の参加者に、旧笹浪家住宅や上ノ国八幡宮、勝山館跡などガイドをして巡りました。

また、お昼には地域で採れた「山菜のかき揚げ」や「きとびる風味のトースト」などの手作り料理も振舞われ、ツアー参加者は上ノ国の歴史と食を楽しみました。



きれいな町で 気持ちさわやか

4月20日、各町内会が主体となって町内一斉クリーンアップ作戦が行われ、多くの方が参加されました。

この日は、各地区で精力的にゴミ拾いが行われ、ある地区では7時前からゴミを拾う人の姿が見られ、草の中にある目立たないゴミや、タバコの吸殻などの小さなゴミも見逃さないよう、丁寧に拾っていました。

この日、回収されたゴミの量は約6トンにのぼり、町内のゴミが一掃されました。

新しい手法で 収穫アツフを

4月28日、桂岡地区において、土壌消毒剤「クロルピクリン錠剤」の使用実演会が行われ、28人の農業関係者が参加しました。この土壌消毒剤は、作物を同じ畑に何度も植えると発生する連作障害を解消する手段として期待されているもので、特に本町の特産品であるキヌサヤエンドウは、連作を行うと高い頻度で病気になるため、一度植えた畑は4〜6年間も休ませないとならないため、解消が望まれています。

参加者からは「うちは畑が狭いから必ず何割かは連作障害でだめになっていった、解消できるなら使ってみよう」との声も聞かれ、町としても今後の収穫に期待を寄せています。



子供たちが 春を呼ぶ

4月24日、道の駅もんじゅに一足早く桜の木がお目見えしました。

これは、「もつと身近な道の駅」をコンセプトとして、地域に楽しいイベントを提供していくと上ノ国町観光振興公社が企画したもので、木の幹のイラストに、上ノ国、河北、滝沢保育所の園児たち23人が手形で花びらを描きました。

この手形でできた桜の花は、道の駅もんじゅの壁に張り出され、地元の方や訪れる観光客の目を楽しませていました。

